

新同窓会会長誕生・新学長就任

群青の風

号 外

H10.7.21 発行

会員の皆様へご挨拶

新会長 森 晴雄

本学も創立二十五周年を迎えようとしています。この度、記念すべきこの節目に不肖の私がか会長という大役を仰せつかることになりました。特に、長年同窓会活動に大変ご尽力され、国際医学の閉校記念事業、創立20周年記念事業と数々の事業をなされた前会長の増田さんの後を引き継ぐことになり、あらためてその荷の重さに身の引き締まる思いがしております。今後は、同窓会と会員の皆様との接点である

こうした機関紙を活用して、皆様の交流の場にできる様頑張つて行きたいと思っております。何分未熟者ですので、ご支援ご鞭撻の程よろしく願います。

ご案内の通り、長年本学の発展に寄与された小林学長が退任され、今後は神野学園の顧問としてご尽力下せることになりました。小林学長の功績は皆様もご存じの通りですが、今後も益々のご活躍を期待しております。

後任の上野学長も、長年岐阜大学医学部でご活躍されており、本学でもこれまでお世話になつていた方ですので、前学長の後を引き継いで、本学発展のためにより一層ご尽力いただけるものと思えます。同窓会としても、今後お世話になることが多々あるかと思いますが、是非ともご支援を賜りたいと思っております。

さて、医療の現場に目をむけて

見ると、保険点数の削減、就職難などまさに冬の時代とでも言えそうな状況にあります。

こうした状況を見ると、なかなか難しいかとは思いますが、期待させる医療人になる事が打開するための道であると考えます。そのためには、我々に何が望まれているかを考え、それらに向かつて、我々の手で一歩ずつ未来を切り開いていく事が必要なのではないのでしょうか。その事が我々将来のためでもあり、我々の後輩のためでもあり、あるいは患者さんのためでもあり、ひいては母校の、そして同窓会の発展のためでもあると思えます。

同窓会の明るい将来のために、どうか今後とも本会活動に会員の皆様の御協力をお願いします。

卒業生の皆様へのご挨拶

新学長 上野 一恵

小林瑞穂前学長がご勇退になり、5月1日から後任として学長に就任しました上野一恵であります。小林前学長は1986年4月から本年4月30日まで12年間に亘り岐阜医療技術短期大学学長として本学の発展のため数々のすばらしいご功績をあげられて来られました。特に看護棟建築と看護学科の増設、正門改修、学内LANの設置などは卒業生の皆様には十分ご承知のことと存じます。今日の岐阜医療技術短期大学が開学以来素晴らしい発展を遂げましたことは、医療現場における卒業生の皆様の日常のご努力の結果と素晴らしい評価によることは当然の事ながら、在学生諸君の勉学、全教職員の努力の成果を見逃す事は出来ませんが、小林前学長のご指導・ご鞭撻の結果によるところが大であります。卒業生・在学生の皆様方、全教職員と共に小林瑞穂前学長に深甚なる感謝を申し

上げる次第であります。

医療制度の改革や18歳人口の低下などは、医療技術系短期大学での教育においても難しい問題点が出てきました事も疑いのない事実であります。しかし、我が岐阜医療技術短期大学では建学の精神に基づき、温かな心と優しさを育む人間教育、高度で豊富な知識と技術を身につけ、さらに創造性を養い、医療現場に於いて迅速・的確で高度な対応ができるよう、特色ある教育研究を実施すべく教職員が一丸となつて鋭意努力しているところであります。今後とも、本学では二十世紀における我が国の医学・医療の姿を見据えた医療人としてコメディカルの育成に取り組んで参りたいと決意しております。一方、開かれた大学として直接社会に貢献出来る様なことをも模索している次第であります。少子高齢化への足早な進展により、今後重要性が増してくる高齢者看護を担う福祉・医療・保健関係にも期待される人材の育成に積極的に対応して行きたいと考えております。一方、差し当たっては、本学の看護学

科に専攻科(助産学専攻、地域看護学専攻、修業年限1年)の新設をステップとして、さらに衛生技術学科・診療放射線技術学科に関する学位授与機構対応の専攻科の新設にも積極的に取り組み、より高度な医療技術者の育成に力を投入する所存でございます。さらには、将来は本学の四年生大学への道をも念頭に置きながら、岐阜医療技術短期大学が国内は素より国際的にも高く評価され、より信頼・評価される大学になれる様、さらなる発展に全力を投入する決意しておりますので、卒業生の皆様方には旧倍のご支援・ご指導を懇願申し上げます。

(略歴)

昭和25年 岐阜農林専門学校獣医学科卒業、同年 国立予防医学研究所結核部、昭和29年岐阜県立医科大学微生物学講座助手、昭和46年 岐阜大学医学部微生物学助教授、昭和53年 岐阜大学医学部附属嫌気性菌実験施設教授、平成5年 岐阜大学定年退職・名誉教授、同年 本学 教授、平成10年 本学学長就任

同窓会の皆さんへ

前学長 小林 瑞穂

岐阜医療技術短期大学も国際医学総合技術学院の発足以来通算しますと25年になります。私はこの25年間を様々な形で関わってきました。最初の開設時の人事、ついで非常勤講師として、さらには国際医学の副学院長から学院長、この間学園の常務会の一員として学園の運営に寄与し、短大昇格の責任者として、その後は学園理事、また短期大学長として今日まで参りました。そして、気がついてみたら、何と古希に達し、人心の一心と、新しい考え方で、大学の運営をして頂きたいと考え、昨年末以来理事会に辞任を申し出ておりましたが、この4月30日付けで承認となり、以後は非常勤顧問として、学園の教学全般並びに今申請中の学園のパスフィック・カレッジの介護福祉学科の開設を手伝うことになりました。

私の学校運営と教育は、常に社会に受け入れられるものでなければならぬと考えてきました。そのためには、入学者の選抜には医療人としての適正を第一とする事、教育については暗記ではなく、論理的思考体系から実学としての医療技術を修得させる事、最も力を注いだのは医療人としての人間性の育成でした。これらの事は考え方としては、当然の事です。が、これを日々の教育の上にとどのよう表現し、実施していくかについては、まったく試行錯誤の連続のようなものでした。学生一人一人の個性は、人学までの18年間の生活が異なるように千差万別であります。しかし医療の特殊性から考えて、個性を生かしつつ医療人としての厳しい認識を持たせることが必要です。またこのように教育することが、個人を尊重し将来医療の世界で十分に認められ活躍できる人材の育成になると信じて教育してきました。そのために学生諸君やご父兄、さらには教員からも大変厳しすぎるとの批判は常に取りましたが、私の

70年の生涯を通して得た経験や先輩諸氏に教えられた事などから、信念を持ってこの25年間の岐阜医療の教育と運営を推進してきました。

同窓会の皆さん、今医療界は少子高齢社会と言う今まで誰も経験しなかった世界を迎え、医療構造が抜本的に改革され、しかも自由競争と商業原理が導入されつつあります。どうか学生時代に培った「生涯教育」であるヒポクラテスの精神を座右の銘とし、ますます精進されるよう祈念いたします。

平成10年度・11年度 役員

会長	森 晴雄 (国M6)		
副会長	伊東明宏(国M9)	近松 薫 (国R9)	笠野陽子(短N1)
書記	古田美和(短M11)	三好利治(短R12)	上田広美(短N1)
会計	武藤延秋(短M2)	奥田大輔(短R13)	堀 ちづる(短N1)
会計監査	佐伯浩和(国M10)	野田智明(短R8)	上平公子(短N2)
編集委員長	吉村成雅(短R5)		

同窓会補助の規約改定の

お知らせ

会員の皆さんがご存知のように従来、同一回生 10人以上における同窓会開催にあたり、当日の様子等の作文と写真(全員)を引換え出席者一人に対して ¥500の補助を行ってきました。しかし最近、県単位・下宿単位で同窓会が開催されることが多くなり、より活発に同窓会が開かれる事を期待し同窓会補助の規約改正を行いました。

(改正点)

1. 同一回生 10人以上を改め、役員会で同窓会と認めれば補助します。
 2. 出席者一人 ¥500の援助を次のように改めました。
- ア. 同窓会開催にあたり必要だ

つた通信費に対して、領収書があれば全額補助します。

イ. 同窓会出席者一人 ¥500の補助をします。

但し、従来と同様に作文と写真が条件ですので、事後支払いになります。」
何か不明な点は同窓会事務局までお問い合わせ下さい。